

第3回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概要)

先般開催した、令和2年度 第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和2年12月21日（月） 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 検討結果

移出、合板、建築材等の一部で回復の兆しはあるものの、全体的な需要の回復には至っていないため、「国有林材の供給調整を継続する必要がある」との結論に至った。

具体的には、「素材の委託販売を一部見合わせる」ことによる対応を継続する。

なお、対応にあたっては、地域での原木需要動向、木材市況及び民有林材の供給状況等の実態を十分踏まえつつ行うこととする。

4. 主な意見等

- 建築関連の製材や合板の動きは回復してきたが、梱包材がなかなか回復してこない。国有林材の供給調整は、素材価格が暴落していないことを考えるとうまく機能したと考えている。

民有林の伐採は、これから最盛期を迎えることや木材需要が全体的に回復していないことを考えると、国有林材の供給調整の抑制量を急激に緩めるべきではない。

- ホワイトウッド等の輸入材は、入荷が厳しくなっている。

製材工場は生産調整で素材の在庫が減少しており、特にトドマツ小径木が不足してきている。また、プレカットは、稼働率が昨年比9割程度と比較的順調で、来年度も継続すると見込まれる。

そうした状況の中、製材工場は冬期に伐採した材の購入に動くことが想定され、運材できるうちに販売するべきであり、国有林材の委託販売量の一部見合わせは見直してほしい。

- 素材生産は大きな自然災害等がなく、順調に推移してきている。
林業事業者のアンケートによると、製材工場の素材の受入れ制限等を懸念する声がある。

- 移出の実績は、カラマツが昨年度比117%で好調な一方、トドマツは25%と大幅に減少。ただし、トドマツも動きはじめており、今後回復してくるとの見通しもあるが、値戻しまでは至っていない。

- トドマツ・エゾマツ・カラマツの原木在庫は、一時の過剰な状態が解消されつつあり、製材出荷も前年比8割程度にまで回復してきている。今後も徐々に回復の傾向と見通し。

- 製紙需要は、一時的に回復したものの減少しており、それに伴い減産している。来年度については、不透明である。
一度に大量の輸送のオーダーが入っても、トラック運材のキャパには限りがあるので対応できない。そうした事態にならないよう、コンスタントに山からのトラック運材ができるよう配慮してほしい。

- 新型コロナの影響よりも、それ以前から木材需要は落ち込みはじめていた。桧木・梱包材は落ち込んでいるものの、建築材は維持されており、ホームセンター向けは好調である。売り上げは昨年比1割減だが、原木消費量は昨年を上回っている。今後、原木が不足することを懸念している。
製品需要構造の変化や輸入材の入荷が厳しくなる見通しであり、国産材需要を拡大できる体制整備が必要。最終需給者が困らないように対応する必要がある。

- カラマツ製材は、回復傾向にあるものの、2月は例年落ち込む時期である。
冬期に出材したトドマツは、どこの製材工場も購入意欲が旺盛であり、積極的に販売してほしい。

- バイオマスは、新型コロナの影響を最も受けない分野であるが、原料の集荷に苦慮している。最近の原料の割合については、4割をチップ材で購入しており、4割の内3割が林地未利用材チップとなっている。